

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏領域地殻大型地震の可能性推定前兆 続報  
第6ステージから第7ステージへ

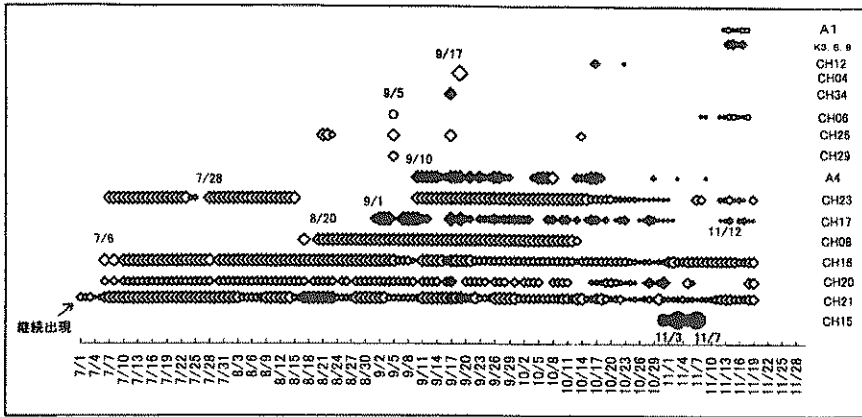


図-1) 11/17まで全体を第6ステージ前兆と認識していた全体像

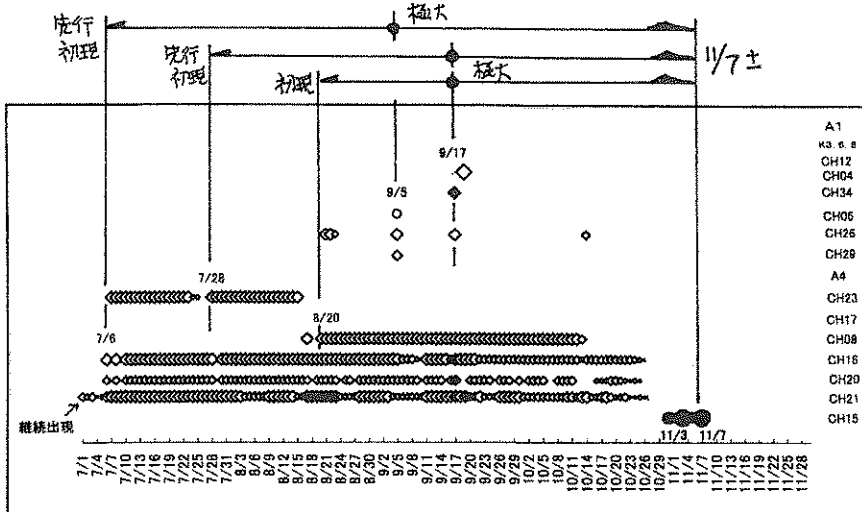


図-2) 第6ステージ認識前兆 示した時期→第7ステージの最初極大11/7±

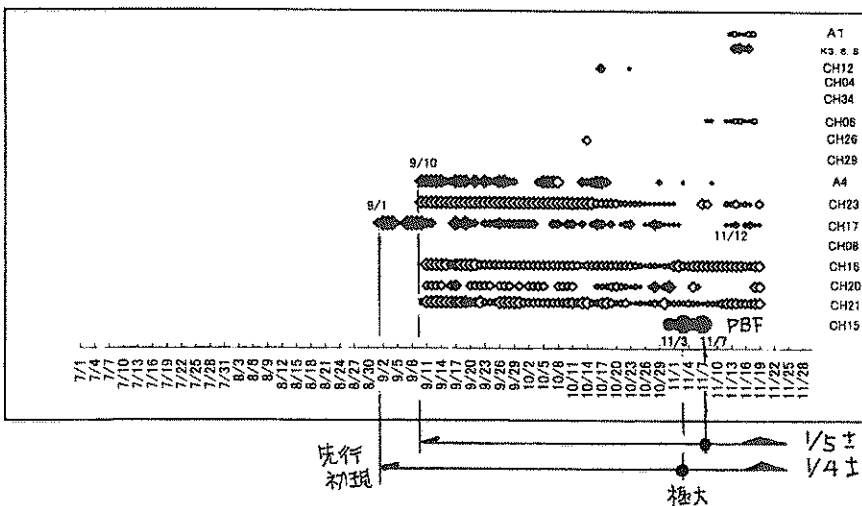


図-3) 第7ステージ認識前兆群

前号で今まで第6ステージと認識していた前兆群が、前半は11/7±を示し、11/7(CH15+PBF)極大関係以降は第7ステージに入っていたことを再検討の末、再認識したことを報告致しました。

◆左図-1) は、第6ステージ認識前兆初現の頃から現在までの全体像です。最近までの全体を第6ステージと誤認識していたため、前兆が静穏傾向となった10月末以降の11月初旬CH15+PBFが集中出現した理由が理解できませんでした。

◆左図-2) は第6ステージ認識前兆群抜粋図です。7/6に明確な前兆継続初現が認められます。7/28にも初現認識でき、9/5と9/17(9/17が前兆が揃っている)の極大に対する先行特異の可能性と認識し、9/17を中心に出現したCH08の初現8/20を通常のTfap:Tmap=20:13の初現認識しますと、全てが11月07日±時期を示します。(8/22±CH26は数日に渡っての出現で、8/20初現とも合うため極大認識しませんでした)

先行特異初現～極大: 極大～発生=1:1

先行特異初現7/06～極大9/05⇒11/5±

先行特異初現7/28 極大9/17⇒11/7±

Tfap:Tmap=20:13 経験則より

初現 8/20 ~極大 9/17 ⇒11/8±

※第6ステージが示した11/7±は、CH15+PBF極大で次の第7ステージの最初の極大時期を示していた。

◆左図-3) は第6ステージが示した11/7±(CH15+PBF)極大を最初の極大とした第7ステージ認識前兆群です。11/7±極大に関係すると見られる先行する前兆を入れてあります。(CH16, CH20, CH21は継続ですが、静穏化変化したところで前半を消してあります)

継続する前兆で10月末静穏化変化する前兆が二種(3E-9)あります。9/1から継続出現のCH17と9/10から継続出現のA4, CH23です。この2種(3E-9)とも10月末静穏傾向変化するところから、11月初旬極大に対する先行特異の可能性が高いと認識できます。11月初旬のCH15+PBFは11/3と11/7にピーク認識できます。

先行特異初現9/01～極大11/3⇒2014.1/5±

先行特異初現9/10～極大11/7⇒2014.1/4±

この認識が正しければ第7ステージ前兆群は第6ステージ前兆群と同じ前兆期間約4ヶ月で、来年01月04日±時期を示します。また、11/12±から複数観測装置に前兆が継続しています。更に極大が出現する可能性も示唆されますので、1/4±時期を示すか否か、注意して観測を続行します。11月初旬のPBF極大は顕著で、最近の複数特異による極大と比較しても最大でした。

C) Copyright 2013 YSBO八ヶ岳南麓天文台

※続報No.55で第6ステージの認識が間違っていたことをお詫びし、訂正させて頂きましたが、第6・第7ステージについてまとめました。